

通所リハビリ
テーション室
**クリスマス
忘年会**
在宅医療支援
センター2F

通所リハビリテーション室

介護福祉士 山岡 千春

毎年恒例になりましたクリスマス忘年会を、今年も12月16日に行いました。今回で6回目になりましたが、始まる前より利用者様にはとても楽しみにして頂いており、私たちスタッフも一丸となり、準備にとりかかりました。



最初に売店さんに協力して頂き、通所リハビリフロアにて買い物をして頂きました。普段なかなか買い物に行けない方が多く、沢山の品物をとても喜ばれ買い物されていました。

続いて、スタッフによる出し物を行いました。ハンドベルの演奏から始まり、ステキな音色に聞き入っていました。美空ひばりや和田アキ子になりきったスタッフや、セーラ服を着て踊ったり、女装した男性スタッフ、また、ロシアブルーレットではスタッフの中の誰がカラシ入りのシュークリームを食べたか当てるゲームなど、普段の通所リハビリでは見ることのできないスタッフの一面を見て、皆さんとても喜ばれていました。



日頃頑張ってリハビリに取り組まれている利用者様に一年間の疲れを取って頂き、楽しんで頂きたいと思い、忘年会を始める様になりましたが、これからも利用者様に喜んで頂ける様に、さらに来年の忘年会を盛り上げていきたいと思います。

**5病棟
クリスマス会**
南国病院本館4F
食堂ホールにて
H28.12.21(水)

MSさん

大変楽しめました。職員さんが考えたゲームでは、知っている患者さんが大きい靴下のお菓子セットが当たっていて、大変うらやましかったです。

NNさん

楽しかった。職員さんの出し物の二人羽織では西さんの顔がクリームまみれになっていたの、それを見て、おかしかったです。

精神科作業療法室 作業療法士 西 洋平

今年も5病棟でのクリスマス会を行いました。主なプログラム内容としては、クリスマスプレゼントのくじ引きと病棟職員による出し物、おやつのお食事会を行いました。今回もサンタに変装し(すぐにばれましたが)入院されている方が生活ですぐに使えるものをプレゼントしました。くじ引きで自分の欲しい商品が当たれば、嬉しそうに持って帰っている患者さんもいました。病棟職員の出し物は二人羽織を行い、クリスマスケーキを食べました。二人羽織の時には職員の髪の毛や顔にクリームがたくさんついており、見ている患者さんもお腹を抱えて大笑いしていました。最後はお楽しみのおやつの時間であり、今回はカップを3層構造で色々な味を楽しめるケーキを用意しました。食べている患者さんには大変おいしいとの感想も頂き、今回も大成功を収めました。今年も患者さんから“楽しかった”“ケーキで顔がすごいことになったけど大丈夫？”など様々な感想をもらい、今回も行って良かったと思っています。来年はさらにおもしろおかしくクリスマス行事ができるように今から考えていこうと思います(笑)



3病棟
2017年
酉
南国病院本館3F
食堂ホールにて



第3回
Hi-Six
42.195 km
リレーマソン
in
高知春野総合運動公園
H28.11.27(日)

常務理事 清遠 文博

このリレーマソンは、(社)42.195kmリレーマソン協会とエフエム高知の共催による高知で3回目の大会で、今年は約220チーム、約1800人が参加し力走しました。南国病院からは、医局ドクターのご子息15歳から理事室の63歳までの30人が3チームに分かれて参加しました。天候はあいにくの雨でしたが、3チームとも無事に襷をつないで完走できました。参加した皆さんはそれぞれに達成感、満足感があつたのではないのでしょうか。ちなみに私の属した浦島太郎チームは3時間34分47秒でゴールできました。



ランニングの大会に参加する人には、大会当日までの長い期間をそれぞれに調整、準備するプロセスがあります。職員の皆さんが走る姿を見て、普段とは違う側面を見せてもらいました。一見それほど運動しているとは思えなかった人が、力強い安定した走りをして、普段から継続的に何か運動をしているか、またこの大会のためにかなり準備をしたのだらうと思わせる人が何人もいて、見る目が変わりました。

ランニングは取り組みやすい運動ですが、単調なので一人ではなかなか継続できず止めてしまう人もいます。リレーマソンを含め、高知県各地でマソン大会が開催されていますので、仲間と一緒に大会に参加することをモチベーションにランニングを続けることは健康維持、向上につながり、健康面や精神面に好影響を与えるのではないのでしょうか。参加した職員の中にも何か運動しようという動機で1回目または2回目の大会に参加し、それがきっかけで継続してこのリレーマソンや他のマソン大会に参加している人がいます。リレーマソンをきっかけに、南国病院でランニング仲間の輪が徐々に広がり、職員の健康UPや副次的に病院運営にも効果をもたらすことを期待しています。

